

- 問1 東北地方などの農業において、安価な輸入農産物との競争が激しくなる中、国産品の価値を高めて差別化を図るための取り組みが重視されています。このような戦略の内容として最も適切な説明はどれですか。 (2021年 香川県公立入試 類似)
1. 輸送コストを削減するために、都市部の消費地から離れた地域での農業生産をすべて停止する。
 2. 大規模な機械化を徹底的に推し進め、輸入農産物と同等の低価格を実現することのみに専念する。
 3. 海外から安価な種苗を大量に導入し、栽培にかかる初期コストを極限まで抑えて生産量を増やす。
 4. 農薬の使用を減らして安全性を向上させ、生産者の情報を消費者に公開することで信頼を獲得する。
- 問2 青森県の人口構成の変化について、1980年頃に見られた「底辺が広く若年層が多い状態」から、2020年頃の「少子高齢化が進行し、若年層が減少し高齢層が増加した状態」への人口ピラミッドの型の推移を表す組み合わせとして、最も適切なものはどれですか。 (2025年 青森県公立入試 類似)
1. 富士山型からつば型へ
 2. ひょうたん型からつりがね型へ
 3. つば型から富士山型へ
 4. つりがね型から星型へ
- 問3 日本の各地域における農業産出額の品目別割合を比較したとき、米の割合が約35%に達し、提示された他の地域と比べて米の比率が極めて高いという特徴を持つ地域はどこですか。 (2016年 岩手県公立入試 類似)
1. 九州地方
 2. 近畿地方
 3. 関東地方
 4. 東北地方
- 問4 東北地方の6県について、面積や農業生産額をまとめた統計資料を確認すると、県の名称と県庁所在地の名称が異なる県がいくつか存在することがわかります。岩手県と宮城県における県庁所在地の名称の組み合わせとして、正しいものはどれですか。 (2021年 香川県公立入試 類似)
1. 岩手県 ― 花巻市、宮城県 ― 石巻市
 2. 岩手県 ― 岩手市、宮城県 ― 仙台市
 3. 岩手県 ― 盛岡市、宮城県 ― 宮城市
 4. 岩手県 ― 盛岡市、宮城県 ― 仙台市
- 問5 宮城県の産業構造について述べた文として、製造品出荷額の規模と農業の特色をふまえた、最も適切な説明はどれか。なお、製造品出荷額等は約9兆円、農業では米のほか野菜の生産も盛んなものとします。 (2024年 高知県公立入試 類似)
1. 製造品出荷額等は1兆円を下回るが、果実の産出額が全国トップクラスである。
 2. 大規模な工業団地が集積しているが、農業における産出額は果実が野菜を大きく上回っている。
 3. 東北地方の中でも工業生産が盛んであり、仙台市などの都市向けに野菜を生産する農業も行われている。
 4. 製造品出荷額等は東北最大級であるが、農業は米の単作に特化しており野菜の生産はほとんど行われていない。
- 問6 東北地方の太平洋側、特に宮城県沿岸部において、冬の降水量が少なく乾燥した晴天の日が多くなる理由として、地形と風の影響をふまえて説明したものを選びなさい。 (2019年 富山県公立入試 類似)
1. 冬に暖流である対馬海流の上を通る湿った風が、山脈にぶつかる前に太平洋側へ直接吹き込むため。
 2. 夏に冷たい千島海流（親潮）の影響で冷害が発生し、その影響が冬まで残って雲の発達を妨げるため。
 3. 冬の北西の季節風が奥羽山脈を越える際、日本海側に雪を降らせ、太平洋側には乾燥した空気が流れ込むため。
 4. 奥羽山脈が夏に太平洋側から吹く湿った南東の季節風を遮り、冬にだけ雨雲を通過させる仕組みになっているため。
- 問7 東北地方の農業と地域産業について述べた次の文のうち、内容が正しいものはどれか、選びなさい。 (2026年 群馬県公立入試 類似)
1. 福島県は、東北地方において西洋なしの生産量が最も多く、金属製品の製造を伝統産業として発展させてきた。
 2. 青森県は、りんごの生産量が全国有数であるほか、西洋なしの生産シェアにおいても全国の70パーセント以上を占めている。
 3. 山形県では、全国シェアの大部分を占める西洋なしや、さくらんぼなどの果樹栽培が盛んに行われている。
 4. 東北地方の果樹栽培は、主に日本海沿岸の平野部で展開されており、米作りとの兼業が困難なため、果樹専業農家のみで構成されている。
- 問8 東北地方に位置する6つの県のうち、県名と、その行政の中心地である県庁所在地の名称が異なっている県の組み合わせとして正しいものを、次の中から選びなさい。 (2019年 富山県公立入試 類似)
1. 青森県と秋田県
 2. 岩手県と福島県
 3. 山形県と福島県
 4. 岩手県と宮城県
- 問9 農産物の付加価値を高める取り組みの一つに、生産者が消費者に直接農産物を届ける「産地直送」があります。この流通形態が持つ、差別化における役割としてふさわしい説明はどれですか。 (2021年 香川県公立入試 類似)
1. 仲卸業者を通さず新鮮な状態で届けるとともに、生産者の顔が見える情報を伝えることで安心感を高める。
 2. 農作業のすべてを機械ではなく手作業のみで行うことを条件に、政府からの多額の補助金を受け取る。
 3. 品質の良し悪しに関わらず、すべての農産物を同一の規格として扱い、箱詰めの作業時間を短縮する。
 4. 国内の需要を無視して海外市場への輸出を優先し、希少価値を利用して国内価格を大幅に引き上げる。
- 問10 日本の地方区分と位置関係について、東北地方の南端に位置する福島県と陸地で隣接している2つの地方の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2025年 熊本県公立入試 類似)
1. 北海道地方と関東地方
 2. 中部地方と近畿地方
 3. 関東地方と中部地方
 4. 関東地方と近畿地方
- 問11 岩手県の南部鉄器においてIH調理器に対応した製品が開発されたり、青森県の津軽塗においてスマートフォンのカバーが作られたりしています。伝統的工芸品の産業において、このような取り組みが行われている背景として最も適切なものはどれですか。 (2019年 長野県公立入試 類似)
1. 伝統的な技法を維持するために、江戸時代から続く製品の形や用途を一切変えずに保存することを目的とするため
 2. 天然の原材料の使用を全面的に禁止し、現代の工業製品と同じプラスチック素材へ置き換えることで耐久性を高めるため
 3. 伝統的な技術を守りつつ、現代の生活様式に合わせた製品開発を行うことで、国内外への販路を拡大するため
 4. 手作業による工程をすべて廃止し、機械による大量生産に切り替えることで、製品の価格を大幅に下げため
- 問12 山形県は果実の産出額が約六百九十億円にのぼり、農業において重要な地位を占めています。同県において、サクランボやブドウなどの果樹栽培が、内陸の盆地を中心に発展した自然環境の理由として最も適切なものはどれですか。 (2020年 新潟県公立入試 類似)
1. 最上川の下流に広がる平野部が、常に冷涼な潮風にさらされているため。
 2. 日本海を流れる暖流の影響で、冬でも雪が降らず年間を通じて温暖であるため。
 3. 奥羽山脈から吹き下ろす湿った風が、年間を通じて安定した降水量をもたらすため。
 4. 盆地特有の気候により、夏は高温になりやすく、さらに昼夜の気温差が大きいため。
- 問13 秋田県の人口構成において、15歳から64歳の生産年齢人口の割合が他県に比べて低く、65歳以上の人口割合が約40%という高い水準にある状況を指す言葉として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 愛知県公立入試 類似)
1. 情報化社会
 2. ドーナツ化現象
 3. 過密化
 4. 少子高齢化

答え合わせ・解説

問1	答え 4 農薬の使用を減らして安全性を向上させ、生産者の情報を消費者に公開することで信頼を獲得する。	日本の農家は、価格面で有利な輸入農産物に対抗するため、品質や安全面での「付加価値」を高める戦略をとっています。具体的には、農薬の使用を制限して「安全性の向上」を図ったり、誰がどのように作ったかという「生産者情報」を明示したりすることで、消費者から「安心・安全な国産品」としての信頼を得る、いわゆる農産物の差別化が進められています。
問2	答え 1 富士山型からつぼ型へ	人口構成の変化は、多産多死に近い状態から少子高齢化へと進みます。1980年頃の若年層が多い状態は底辺が広い「富士山型」の特徴に通じ、近年の少子化により子供の数が減り、高齢者が増えた状態は「つぼ型」と呼ばれます。「つりがね型」はその中間の時期（2000年頃など）に見られる形状です。
問3	答え 4 東北地方	日本の「穀倉地帯」と呼ばれる東北地方は、広大な平野を活用した稲作が盛んです。農業産出額の構成において、全国平均と比較しても米の占める割合が高いのが最大の特徴です。一方で、九州地方は畜産の割合が、関東地方は近郊農業の影響で野菜の割合が高くなる傾向にあります。
問4	答え 4 岩手県 ― 盛岡市、宮城県 ― 仙台市	東北地方の6県のうち、青森県（青森市）、秋田県（秋田市）、山形県（山形市）、福島県（福島市）の4県は県名と県庁所在地名が一致しています。一方で、岩手県は盛岡市、宮城県は仙台市が県庁所在地となっており、県名と都市名が異なります。仙台市は東北地方唯一の政令指定都市であり、行政や経済の中心地としての役割を担っています。
問5	答え 3 東北地方の中でも工業生産が盛んであり、仙台市などの都市向けに野菜を生産する農業も行われている。	宮城県は東北地方における工業の中心地であり、製造品出荷額等は約9兆円という高い水準にあります。農業面では、広大な平野を利用した米作りだけでなく、大消費地である仙台市の周辺で野菜を栽培する「近郊農業」が盛んに行われている点が、他の東北各県と比較した際の大きな特徴です。果実の生産が野菜を上回る、あるいは製造品出荷額が1兆円未満であるといった記述は事実と反します。
問6	答え 3 冬の北西の季節風が奥羽山脈を越える際、日本海側に雪を降らせ、太平洋側には乾燥した空気が流れ込むため。	日本の冬は北西から湿った季節風が吹きますが、東北地方の中央を走る奥羽山脈が壁の役割を果たします。風に含まれる水分は日本海側で雪として降り、山を越えて太平洋側に到達する頃には乾燥した気流となるため、太平洋側では冬の降水量が少なく、晴れの日が多くなります。
問7	答え 3 山形県では、全国シェアの大部分を占める西洋なしや、さくらんぼなどの果樹栽培が盛んに行われている。	山形県は、西洋なしの生産において国内で圧倒的なシェアを持っており、さくらんぼと並ぶ県の主要な農産物となっています。青森県はりんごの生産量は全国一位ですが、西洋なしの最大シェアは山形県です。東北地方の農業は、気候や地形に合わせて米作りと果樹栽培、伝統産業などを組み合わせて発展してきました。
問8	答え 4 岩手県と宮城県	東北地方の6県において、多くの県では県名と県庁所在地名が一致していますが、岩手県と宮城県の2県は名称が異なります。岩手県の県庁所在地は盛岡市であり、宮城県の県庁所在地は仙台市です。これに対し、青森県（青森市）、秋田県（秋田市）、山形県（山形市）、福島県（福島市）は、いずれも県名と都市名が一致しています。
問9	答え 1 仲卸業者を通さず新鮮な状態で届けるとともに、生産者の顔が見える情報を伝えることで安心感を高める。	産地直送（産直）は、新鮮な農産物を消費者に素早く届けるだけでなく、生産者と消費者が直接つながることで栽培のこだわりや安全性を直接アピールできる利点があります。これにより、単なる「食品」としてだけでなく「誰が作ったかという情報」を付加価値として提供でき、輸入農産物との明確な違い（差別化）を生み出すことができます。
問10	答え 3 関東地方と中部地方	福島県は、関東地方の茨城県・栃木県・群馬県および中部地方の新潟県と陸地で隣接しています。そのため、福島県と陸地で接している地方は関東地方と中部地方となります。
問11	答え 3 伝統的な技術を守りつつ、現代の生活様式に合わせた製品開発を行うことで、国内外への販路を拡大するため	伝統的工芸品は、生活習慣の変化により需要が減少するという課題に直面しています。そのため、長年培われた高度な伝統技術を継承しながらも、IH調理器やスマートフォンといった現代の生活に不可欠な道具と組み合わせることで、新たな利用者を獲得し、地域産業を活性化させようとする動きが活発になっています。
問12	答え 4 盆地特有の気候により、夏は高温になりやすく、さらに昼夜の気温差が大きいため。	山形県には山形盆地や米沢盆地などの盆地が広がっています。盆地は夏に熱がこもりやすく非常に高温になるほか、昼夜の気温差（日較差）が激しいという気候的特徴があります。この激しい気温差が果実の糖度を高めるのに適しているため、高品質な果樹の栽培が発展しました。一方、日本海側であるため冬の降雪量は多く、温暖な気候という説明は適切ではありません。
問13	答え 4 少子高齢化	出生率の低下により子どもの数が減る「少子化」と、平均寿命の伸びなどにより全人口に占める高齢者の割合が高まる「高齢化」が同時に進行している状態を指します。秋田県ではこの傾向が日本で最も顕著な地域の一つとなっており、1980年代と比較しても全人口が減少に転じています。